

第119回東北地方交通審議会
船員部会 議事要録

平成30年 9月21日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会 第119回船員部会

日 時 平成30年9月21日（金） 13：30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員：高橋（真）部会長、増田部会長代理（欠席）、

佐々木委員（欠席）、森委員

労働者委員：熊谷委員（欠席）、高橋（雅）委員、津田委員

使用者委員：齋藤委員、白幡委員（欠席）、平岡委員

運輸局：畠山海事振興部長、丹藤海事振興部次長

佐藤船員労働環境・海技資格課長（欠席）

柳田船員労政課長、村林労政課専門官

大友労政係長

議 題

（1）管内の雇用等の状況について

（2）その他

（資料）

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料（7月分）

資料2 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）

資料3 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）

資料4 新規求人・求職数（全国）

資料5 有効求人・求職数（全国）

資料6 有効求人倍率（東北管内）

資料7 有効求人倍率（全国）

資料8 気仙沼で中学生を対象とした「海洋教室」開催プレスリリース

資料9 大型フェリーでシップスクール（船内実習）開催プレスリリース

資料10 船員の特定最低賃金の改正に係る意見聴取の公示

資料11 平成31年度 海事局関係 予算概算要求概要

資料12 新聞情報

◎開 会

【丹藤海事振興部次長】

〔第119回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料の確認〕

◎議 事

【高橋（真） 部会長】

それでは、早速議事に入りたいと思います。

お手元にあります議事次第の「議題（1）管内の雇用等の状況について」、事務局から報告をお願いします。

〔柳田船員労政課長から資料1から資料7に基づき説明〕

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございました。

ただ今の報告について何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

【高橋（雅） 労働者委員】

資料1の3ページ目の東北管内取扱件数の中で、7月の鰹、鮪の求人数が28件と大分増えているが、これは船舶職員の求人でしょうか。

【柳田船員労政課長】

これは、ほとんどが気仙沼に出た求人ですが、職員も部員もそれぞれに募集がかかっており、職員だけということではありません。

【高橋（雅） 労働者委員】

すると、一船単位で交代者が出たのでしょうか。

【柳田船員労政課長】

単に一者一船ということではなくて、複数の船舶所有者の船でした。

【高橋（雅）労働者委員】

鯉、鮪の下のその他は沖底でしょうか。

【柳田船員労政課長】

その他は、実習船と漁業調査船がほとんどです。あとはイカ釣り船が4件と小さい船です。

【高橋（雅）労働者委員】

わかりました。

【高橋（真）部会長】

そのほかありますか。

ないようですので、次に議事次第の「議題（2）その他」に入ります。

最初に資料8と9について、事務局から説明をお願いします。

[柳田船員労政課長から資料8、資料9に基づき説明]

【高橋（真）部会長】

ありがとうございます。

それでは、今の説明について何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

ないようですので、資料の10について説明をお願いします。

[柳田船員労政課長から資料10に基づき説明]

【高橋（真）部会長】

わかりました。ありがとうございます。

ただいまの説明に関して、何かご意見ありますでしょうか。

ないようですので、次に、資料11の説明はどうしますか。

【丹藤海事振興部次長】

資料11は、平成31年度予算の概算要求概要ということで、情報提供です。

【高橋（真） 部会長】

わかりました。

それでは、委員の皆さんから情報提供をお願いします。

まず、労働者委員からお願いします。

【高橋（雅） 労働者委員】

私からは、サンマの件ですが、北海道の地震では、やはり油の問題、輸送の問題等が起きました。サンマについても、水揚げが悪く1週間に1回くらいの水揚げでした。漁場も大分搜索して、カムチャツカのほうとか公海のほうも探したが、なかなかいい漁場が見つからなかったようです。先週くらいから一昼夜半くらいのところの公海にいい漁場ができているということで、今週に入ってから大型船は100トンくらいずつ水揚げしているようです。値段のほうも大分下がってきたみたいです。

【高橋（真） 部会長】

わかりました。ありがとうございます。

次に、使用者委員からお願いします。

【平岡使用者委員】

酒田市の陸上の雇用に関する情報ですが、酒田商工会議所で平成31年度に開始する取り組みについて、今取りまとめているところです。それを酒田市と話し合いをし予算化の上、どんなことに取り組むかという中で、今までは交通インフラとかそういうのがトップに来ていましたが、来年度に関しては、今現在の状況として雇用確保対策が一番重要になっています。要するに人を募集しても全然集まらない、新卒も当然ですが中途採用も来ないというような状況では、インフラとか、この先、将来のことよりも今現在の雇用の確保が最も重要です。今はもう労働力不足で、工場であれば減産しているとか、そういうところまで落ちてきている状況となっています。

あともう一つは、平成24年に高等学校が4校統合して、東北でも一番大きな学校となった山形県立酒田光陵高等学校ですが、当時、普通校が2つ、商業高校が1つ、工業高校が1つの4校統合したわけですが、これが31年度から工業科が1クラス減ることになっています。そうすると地元の企業は、製造業を中心にしてるので、工業科が一番必要だとして、何で工業科を減らすのかということをお県とかいろいろなところに陳情していますが、決めたものは変えることができないと言われてます。そのため、今地元の県会議員もそんなことでは困るということで議会に対して連名で申し立てをしています。

私も一応、教育関係者にいろいろとそのお話をしたところ、結局、その入試の倍率が低いと言われてしまいます。場合によっては定員割れになっているところもあると。だから、定員割れになっているということは結局、需要が少ないので、需要が少ないところから減らすんだということです。企業側は工業高校が欲しいと言います。ところが受験者が少ないから需要がないから減らします。教育委員会でもそういう言い方ですが、数字だけで見えています。地元の意見を聞くというよりも、やはりどの学校が必要なのかというのは、有効求人倍率で判断するしかないということです。その光陵高校の先生ともいろいろ話をしますと、要は中学校の先生の進路指導というのが重要なんだということです。なぜその工業高校に勧めないかといいますと、結局中学校の先生というのはみんな普通科の出身です。普通科から大学に進んでいるので、やはりどうしても普通科に生徒を入れたほうが無難だということになる。要するに工業に入れることは幅が狭くなってくるというような考えがあり、また、なかなか工業校出身の先生もいないことから、工業科のよさがわからない。これは水産高校とか船についても全く同じだと思いますが、やはりその中学校の先生にいかにかPRするかが大事だと思います。今後そういう取り組みも酒田ではするわけですが、船についても、やはり同じく高校に出前講座とかいろいろやっているけれども、中学校でしたほうがより効果的であり、倍率が多くなれば当然需要が多いということでクラスもふえるということが期待できると思います。以上です。

【高橋（真）部会長】

ありがとうございます。

そのほかありませんか。

ないようですので、本日の議事はこれで終了とさせていただきます。

次回の船員部会は10月26日金曜日の午後1時30分から、会場はここ、4階の会議室で開催いたします。

◎閉会